広報

みなみふらの 2

2022. FEBRUARY No.791

成人式（1月9日）

P2	令和４年 成人式
P3	令和４年 消防出初式
P4	まちの話題・出来事
P5	叙勲受章、新型コロナワクチン接種
P6 ～11	町議会定例会 行政報告・教育行政報告
P12～13	カメラレポート
P14	教育委員会通信南富高新聞
P15	学校だより
P16	ほのお
P17	子育て支援センターだより 保育所の元気な子どもたち
P18	ワカサギ釣り、寄附・寄贈

令和４年 成人式

1月9日、新成人を祝う式典が保健福祉センターみなくるで開催されました。

今年もコロナ禍での開催となり、会場の入口での検温や、手指消毒、会場内の換気など、十分な感染症対策を行いながらの実施となりました。

式典では、父母や家族・来賓の方々が見守る中、スーツや晴れ着に身を包んだ新成人15名がステージから登場し、二十歳の抱負を一人ひとり述べ、新たな門出を祝いました。

その後、国歌と町民憲章が会場に流され、続いて岩渕教育長が「これからの人生の中で、たくさんの苦労や努力が必要となるかもしれませんが、自分の力を信じ、前へ進んで行ってください」と式辞を述べたあと、池部町長と阿部町議会副議長から、激励のことばが贈られました。このあと新成人を代表して及川ななほさんが「郷土である南富良野町の発展のために若い力を結集し、共に力を尽くします」と力強く誓いのことばを述べました。

また、志戸田剣汰さんが「飲酒運転、無免許運転は絶対にしません」と交通安全の誓いを、柴田菜留美さんが「成人としての自覚を新たに、大人社会の一員として自分なりに最善を尽くしていきたいと思います」と謝辞を述べ、新成人の皆さんは成人としての決意を新たにしていました。

令和４年４月より成人年齢が18歳に引き下げられます。
南富良野町では、令和5年以降の成人式の名称を「二十歳のつどい」（仮称）とし、20歳をお祝いいたします。
令和５年の対象者は、平成14年4月２日～平成15年４月１日生の方です。

令和4年 消防出初式

1月4日、新年恒例の消防出初式が行われ、多くの来賓が見守る中、制服に身を包んだ消防団員と署員56名が保健福祉センターみなくるに勢ぞろいし、池部町長や広域連合消防本部安井消防長、清水消防団長などの点呼、観閲を受けました。

引き続き会場をみなくるホールに移した式典では、厳粛な雰囲気の中、多くの来賓を前に各分団の昨年1年間の火災予防や消火活動に対し町長から感謝状のほか、永年勤続団員に対する表彰などの授与・伝達が行われました。

その後、池部町長からの式辞では「消防人としての高い誇りと、その職務の重要性を深く認識し、地域住民の厚い信頼に応えていただくことを期待します」と述べられ、消防長訓示、来賓の阿部副議長・米村富良野警察署長・髙橋上富良野駐屯地第１３１特科大隊長からの祝辞のあと、清水消防団長が「南富良野消防団の伝統と実績を引き継ぎ、団員一丸となって地域住民の安全と郷土の繁栄のためさらに努力していきたい」と挨拶が述べられ、参列した皆さんは、今年1年の無火災・無事故を願っていました。

■南富良野町長感謝状
南富良野消防団第1分団（幾寅）・第2分団（落合）
第3分団（下金山）・第4分団（金山）

■富良野広域連合長感謝状
30年勤続　第4分団　部長　高岡泰彦
10年勤続　第3分団　団員　川邉聖一
第4分団　団員　荒田清一・細井智弘

■北海道消防協会長表彰
30年勤続　第4分団　部長　高岡泰彦
10年勤続　第3分団　団員　川邉聖一
第4分団　団員　荒田清一・細井智弘
南富良野支署　諸士長　髙橋　竜己

■南富良野消防団長表彰
15年勤続　第2分団　団員　古橋国久・山下　陽
第3分団　団員　金　哲也
第4分団　団員　石川尚武・得能里明
10年勤続　第3分団　団員　辰見裕之
第4分団　団員　川邉聖一
5年勤続　第3分団　団員　荒田清一・細井智弘
第4分団　団員　及川恭平
増田靖彦

令和3年中の各表彰受賞者

◆秋の叙勲　瑞宝単光章（令和3年11月3日受章）
第1分団 前分団長　上原勝則

◆北海道知事表彰（令和3年11月19日受賞）
20年勤続　第1分団　班長　須甲賢一
10年勤続　第3分団　団員　川邉聖一

◆日本消防協会表彰（令和3年3月5日受賞）
功績章　本　部　団長　清水一文
30年勤続　第4分団　分団長　森川光義

◆上川地方支部表彰（令和3年4月22日受賞）
功労章　第4分団　分団長　森川光義

◆上川地区消防団長表彰（令和3年4月22日受賞）
功労章　第1分団　班長　須甲賢一
第3分団　副団長　大橋健二

◆富良野地区分会表彰（令和3年6月27日受賞）
功績章　第2分団　団員　福田博之
第4分団　団員　石川尚武・得能里明
辰見裕之

令和4年 新年交礼会

1月6日、町内の経済3団体（ふらの農業協同組合南富良野事務所・町森林組合・町商工会）の主催による「令和3年南富良野町新年交礼会」が情報プラザで開催されました。

今年もコロナ禍の開催となり、会場の入口での検温や、手指消毒のほか、開催時間の短縮や参加者を少数にするなど感染症対策を徹底し、静かに新年を祝いました。

はじめに、主催者を代表して同農業協同組合及川智南地区運営副委員長から、国内の農業情勢や昨年の農作物の不作などを振り返り「厳しい1年でありましたが、新たに導入された人参選果場の機械などにより、本町の人参は市場でも良い評価を得られました。本年度、町でも「道の駅再編整備」などで新たな財産や産業が増えますが、それを育て成長させていくことが大事であると思いますので、皆さんと協力し合い共に町の産業を発展していければと思います」と挨拶されました。

主催者代表あいさつ ふらの農業協同組合　及川南地区運営副委員長

続いて、池部町長からは「国際的にも環境問題などが高まり、日本が発展するには、グリーンフォーメーションをキーワードとした環境に配慮した産業構造の変革などが求められてきています。本町では、これまで水源地の町として森林整備事業を進めてきましたが、更なる事業の推進や農地の基盤改良など、今あるものに対して、いかに付加価値を付けることが重要となってきます。また、現在、進めている道の駅再編整備についても、既存の道の駅のまさに変革でもありますので、町民の皆さまのご理解とご協力をお願いします」と述べられていました。

その後、町商工会曽慶一介会長の乾杯により出席した皆さんは、短い時間でしたが、今年1年の抱負などを語りながら懇親を深め、最後に町森林組合鹿野重博 組合長の締めで会が閉じられました。

町商工会 曽慶会長の乾杯

アイスキャンドルと花火で新年を迎える

大晦日の夜、南富良野神社（幾寅）・金山・下金山神社の境内と参道には、本年も町民有志「南富良野アイスキャンドル愛好会（水戸部勇人会長）」の皆さんが製作したアイスキャンドルに灯がともされ、新年を迎えました。

アイスキャンドルは、オイル缶に水を入れ、一晩外に置き凍らせて作製しますが、今年は暖冬により、例年より10日ほど遅い12月20日頃からの作製となり、750個ほどのアイスキャンドルが作製され、各神社の境内と参道に飾られました。

南富良野神社では、年末にかけ、新型コロウイルスの感染者数も、やや落ち着いていたため、帰省した人など昨年より多くの参拝者が訪れる中、11時30分にアイスキャンドルに灯がともされ、新しい年を迎える0時には、神社の横より2年ぶりに花火が打ち上げられました。

参拝者は、アイスキャンドルの幻想的な温かな光と、花火の夜空を彩る華やかな光を眺め、今年1年の無事や幸せ、新型コロナウイルスの終息などを願っていました。

南富良野神社（幾寅）

同愛好会の水戸部会長は「年末年始に帰省した人達に楽しんでもらおうと始めたので、これからも続けていきたいです」と話していました。

瑞宝単光章を受章

上原　勝則 氏（66歳）

永年にわたり消防団活動に尽力された上原勝則氏（幾寅）が叙勲（瑞宝単光章）を受章され、1月17日役場大会議室において、吉田健二上川総合振興局副局長から伝達されました。

上原氏は、昭和53年8月に富良野地区消防組合南富良野消防団団員として拝命以来41年8カ月にわたり、積極的かつ献身的に職務の遂行にあたり消防団の信頼性を高め、地域住民からも厚い信頼が寄せられ、その人柄が多くの方から認められています。

平成12年から、富良野地区消防組合南富良野消防団副分団長、平成29年から3年間は、富良野広域連合南富良野消防団第1分団（幾寅）分団長として、その責務を全うされました。

この間、火災や災害の際は陣頭指揮にあたり、冷静な判断をもって、被害を最小限にくい止め、地域住民の生命と財産保護のため尽力されたほか、団員への激励や助言等を行い、一人ひとりに防災の任の重大さを指導し、消防団の消防技術と資質の向上に努められました。

この度の受章は、こうした永年にわたる功績が高く評価されたものです。

また、今回の受章に対しまして、南富良野消防団長等互助会から上原氏に、記念品として額縁が贈呈されました。

新型コロナワクチン接種の追加（3回目）

老人福祉施設等から接種開始！

新型コロナワクチン接種の追加（３回目）が、１月18日から老人福祉施設（一味園・ふくしあ・大乗会の各障害施設）で接種が始まりました。

一般高齢者（65歳以上）の方の接種も２月以降から、下記のとおり開始していきますので、お知らせします。

○接種予定表

対象の方	接種種別	接種会場	接種予定日
65歳以上	集　団	金山地区コミュニティセンター	○２月16日（水） 午後１時30分から午後３時30分 ○２月17日（木） 午前10時00分から午前11時30分 午後１時30分から午後２時30分
		保健福祉センターみなくる	○２月14日（月） 午後１時30分から午後３時30分 ○２月15日（火）・21日（月）・３月２日（水） 午前９時30分から午前11時30分 午後１時30分から午後３時30分

○64歳以下の方のワクチン接種は、３月中旬以降の開始となります。保健福祉課保健指導係より２回目接種から７ヵ月経過された方に、希望調査票が随時送付されますので、ご回答を願います。

○65歳以上の方で希望調査票の提出を忘れた方でも、接種を受けれますので、保健福祉課保健指係（TEL52－2211）まで連絡を願います。

町議会定例会 行政報告・教育行政報告

令和3年12月15日から開催されました町議会第4回定例会において、池部町長が10件の行政報告と岩渕教育長が5件の教育行政報告を行いました内容についてお伝えします。

町長の行政報告

■本町在住者に対する大臣及び北海道知事からの表彰者について

幾寅地区在住の、上原勝則氏が経済産業大臣より経済産業省所管統計調査功労表彰を受賞いたしました。

上原氏は統計法に基づき報告が義務付けされている工業統計調査員として、平成12年から令和2年までの間に計18回と多年にわたり従事され、責任感と熱意を持ち事務に従事されたことが認められ受賞となりました。

次に、幾寅地区在住の、山西春美氏が北海道知事より社会事業関係功労者として、北海道社会貢献賞を受賞いたしました。山西氏は平成13年から20年の永きにわたり、民生委員・児童委員として、高齢者をはじめ地域住民に対する社会福祉向上のためにご尽力いただいたことが認められ受賞となりました。

次に、下金山地区在住の、金強氏が北海道知事より自治功労者として、北海道社会貢献賞を受賞いたしました。金氏は平成15年4月から平成31年4月まで16年にわたり町議会議員として、地方自治の振興発展に貢献したことが認められ受賞となりました。

北海道社会貢献賞受賞の「金 氏」

今回受賞されました、3名の皆様のこれまでのご活躍に敬意を表するとともに、今後とも本町発展のためご協力を賜りますようお願いを申し上げ、報告とさせていただきます。

■新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、9月30日をもって全ての都道府県におきまして、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除され、新規感染者数も減少し経済活動も再開されてきているところでありますが、札幌市や旭川市ではクラスターが発生している状況であります。国におきましては、第6波に向けた対応も検討されているところであり、これまで取り組んでこられました、マスクの着用・手洗い・手指消毒・定期的な換気など、町民一人ひとりが、これまでの感染症対策の継続的な取り組みを実施してくださいますよう、お願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチン接種状況及び3回目の接種についてであります。

本町の2回目までのワクチン接種につきましては、集団接種は9月14日、個別接種は10月4日に終了し、以後12歳を迎える児童及び新たに接種を希望する町民につきましては、富良野沿線5市町村で連携し、富良野協会病院にて接種を行っているところであります。

接種状況につきましては、接種対象者2，187人で、1回目の接種終了者が1，974人で90．26％、2回目の接種終了者が1，962人で89．71％という状況であります。

また、国では、18歳以上を対象に2回の接種を終えた方全てを対象とし、8ケ月を経過後に3回目の接種を行うこととしております。

本町におきましては、医療従事者等から順次接種を開始し、高齢者福祉施設の入所者及び職員につきましては2月下旬、60歳以上を3月下旬までに接種し、59歳以下につきましては、4月下旬と6月中旬頃の2回に分けて接種を行う計画であります。対象者には日程等が決まり次第、改めてご連絡をさせて頂きますので、ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

次に、抗原定性検査による感染防止対策についてであります。

町民の約9割の方が新型コロナウイルスワクチン接種を終えたことから、唾液採取によるPCR検査から、症状の疑いのある方を対象とした抗原定性検査に切り替え、町内各事業所に事業概要等の説明を行い、現在38事業所で従業員578人が事業所登録を行ったところであります。

今後も事業所内における感染防止対策の一環として取り組みを進めて参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

■季節性インフルエンザワクチンについて

季節性インフルエンザワクチンにつきましては、本町の診療所への供給量が昨年の6割程度となっており、接種を希望される方全員への接種が出来ない状況となっております。

国からの情報では、12月中旬にかけ順次供給される見込みであり、令和4年1月以降も供給が継続される見通しでありますので、接種を希望される方につきましては、医療機関に問い合わせのうえ、予約され接種されますようお願いいたします。

■高齢者等の冬の生活支援事業について

町では、灯油価格が一定基準を超えた場合については、在宅で生活する低所得者に対し、燃料費などの冬期間の必要経費に対する支援を行っているところであります。本年度につきましては、灯油価格の高騰により、より厳しい状況となっておりますので、65歳以上の世帯及びひとり親世帯で町民税非課税世帯である一定の所得額以下の世帯に対しまして、11月26日から30日の間におきまして、1万2千円分の商品券を配布させて頂いたところであり、冬期間の生活の一助になればと考えているところであります。

■子育て世帯への臨時特別給付金の交付事業について

国の「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」（令和3年11月19日閣議決定）において、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、その影響を受けた子育て世帯に対する臨時・特別的な給付措置として、児童を扶養している者の年収が960万円以上の世帯を除き、0歳から高校3年生までの子どもたちに1人当たり10万円の給付を行うこととなりました。

このうち、子ども1人当たり5万円の現金給付を迅速に支給することとなり、「令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金」として、既に対象者に対して周知を行ったところであり、年内に支給するよう取り進めておりますので、ご報告をさせていただきます。

■令和3年度上期ふるさと納税の納付状況について

ふるさと納税の納付状況につきましては、町ではこれまで、令和元年度と2年度の比較で、返礼品の種類を20品目から130品目に増やし、納税者の選択肢を広げる努力を行って来たこともあり、令和2年度の納税額としては対前年比2．7倍、2，300万円増の3，500万円と伸び率としては富良野沿線5市町村で最も大きくなった実績があります。今年度についても、さらに返礼品の種類を追加したほか、3つの寄付募集サイトを増やしたことにより、11月末現在での納付額につきましては、対前年比2．6倍増の2，094万円増の3，376万円となっているところであり、今年度末までには、5，000万円程度の寄付額を期待しているところであります。

ふるさと納税返礼品カタログ

今後においては、新型コロナウイルスによる巣ごもり需要の拡大により自治体間で寄付額の競争が激化している状況にある中で、町としては、新規寄付者やリピーターの獲得競争に力を入れる必要があるものと考えていることから、さらに魅力あるふるさと納税返礼品の種類を増やすことを目的として、本町で生産されているポテトチップスで町をPRするデザイン化したパッケージの限定商品を返礼品に追加することや、町内で作られている農作物やエゾシカ肉等による加工品、宿泊とアドベンチャーツーリズムを組み合わせたツアーなどの企画商品の掘り起こしのほか、デジタル広告への掲載や返礼品カタログの作成など効果的な発信を行い、納税額の増額による自主財源の確保及び町内における消費拡大、町の知名度アップに繋げられる取り組みとなるよう進めてまいりますので、ふるさと納税の取り組みに、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

■JR根室本線の災害復旧と路線維持をめぐる情勢について

JR根室本線の災害復旧と路線維持をめぐる9月定例会以降の状況についてでありますが、根室本線対策協議会の総会の場で、JR北海道の協議申し入れを受け、その後、鉄路の存続と併せて新たな交通体系の検討を、富良野市、南富良野町、新得町、占冠村による1市2町1村の関係自治体とJR北海道、北海道を含めた事務レベルの幹事会が6回開催され、観光面や災害時の代替ルートとしての鉄路の可能性、鉄路存続負担金額の精査やバス代替ルートなどの新たな交通体系の検討を行っているところであります。

10月27日には、町の要請によりJR北海道と北海道に同席していただき、議会との間で意見交換をする場として全員協議会を開催いたしました。

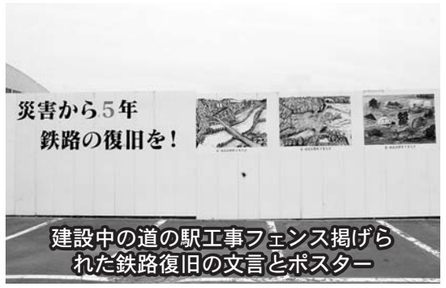
意見交換の中では、JR北海道と北海道がそれぞれの立場での考え方を説明いただき、議会側からはJR北海道に対し「バス転換した場合、運転手確保など考慮しているのか」「観光周遊ルートとして道北と道東を繋ぐ鉄路を切ってしまっていいのか」「北海道の将来を見据えた鉄路はどうあるべきか」また、北海道に対しては「オール北海道で取り組ん

だというが、オール北海道になれていない気がする」「北海道として鉄路のあり方をどの様に考えているのか」などの意見が出されました。

ＪＲ北海道からは、バス転換した場合の運転手確保については、バスの運転手が不足しているという事実は、全国的に言われており、北海道内でも例外ではないと認識しており、どの様なバス路線にしたら良いのか、どのくらい必要なのかという具体的な勉強をして、自治体のバス事業者に具体的に相談していく形になろうかと思っている。また、観光の関係については、鉄道というのは、目的地へ立ち寄るために動かせないので、バスや車であると道路でルートを構築できる側面があり、鉄道とバスのそれぞれの良いところと悪いところがあるので、人の流れが起きる場所にどういう交通モードを向けていったら良いのかと考えていくことも大切だと思っているとの説明がありました。

北海道の将来を見据えた鉄路がどうあるべきかについては、新幹線が一つの軸になると考えており、また、札幌圏輸送という大量輸送ができる便をどうしていくか、札幌を中心とした都市間特急をどうするかは、今は財源がなく設備投資は出来ないが、現状としては都市間バスにお客様を多く取られているのが実態であることから、価格面や或いは、インバウンドの方の利用を踏まえて、どの様に利用いただくかという意味で、バス・飛行機と連携することで、片道は在来特急、片道は飛行機或いは途中でレンタカーを利用していただくことも可能だと思っている。そういう取り組みをすることで、在来線の活性化についても考えていきたい。その一方で、輸送密度が少ないところについては、バス転換についてご相談をさせていただきたい。との説明もされました。

北海道からは、オール北海道で要請したことは、決して無駄ではなく、今回、国からのご支援をいただいたものもオール北海道で取り組んだことにより、あれだけの支援を引き出せたものと思っている。ただ、残念ながらいわゆる赤線区の問題ですとか、全ての要望が叶わなかったかもしれませんが、取り組んだ成果として、国からの支援を引き出せたのではないかと思っている。



建設中の道の駅工事フェンス掲げられた鉄路復旧の文言とポスター

道の考え方としては、北海道交通政策総合指針にまとめており、その中で物流面や観光面とかも検討することとしている。

観光の関係については、北海道にとって観光は大事な産業と認識しておりますが、一方でＪＲ北海道が言われたとおり、鉄道が全てではなく、いろいろな観光のあり方があるので、現在協議を進めている幹事会の中で、旅行会社の生の声を聞いて検討していきたいとの説明がありました。

現状として、ＪＲ北海道からの申し入れを受け、鉄路存続も含めて検討していきましょうという事でスタートしており、地域住民の皆さんの足をきちんと確保するという事を関係自治体と一緒に考えている最中ですので、ご理解願いたい。との説明もされ、意見交換が終了いたしました。

また、10月28日には、本町を含めた富良野市、新得町、占冠村の４首長で、根室線富良野～新得間の路線存続に向けた財政支援に関する要望を、北海道及び道議会に対して行ってまいりました。

要望内容としましては、「道北・中空知地域と道東地域を結ぶ広域観光周遊ルートの有力な移動手段ツールである根室線は、切断されることなく全線維持されるべき鉄路」として指摘し、根室線（東鹿越～新得間）の早期災害復旧、根室線（富良野～新得間）の路線維持、持続可能な公共交通に対する支援についての３項目を要望してまいりました。

要望に対する道の回答としまして、道の考え方は、道議会の審議を経て北海道交通政策総合指針としてまとめており、生活、観光、物流の３つの側面から検討し、その際には地域の皆さんの意見を尊重していくこととしている。ＪＲ北海道への支援については、国が中心的な役割を担うべきであり、ＪＲ北海道の徹底した経営努力を前提に、国の実効ある支援とともに、地域においても可能な限りの協力・支援を行うことが重要であるとしており、また、道の方針は線区ごとに負担の考え方を示すのは厳しいが、ＪＲ北海道に対して、単なる赤字補填や、老朽化した鉄道施設の更新などへの支援は困難である事を道議会で答弁している。原則として、この考えは変わることはない。引き続き協議を進めたいとの回答でありました。

全員協議会での意見交換や要望結果を踏まえますと、状況は変わっておらず、鉄路存続については、非常に厳しいと言わざるを得ないところであります。

町としましては、現状の鉄路の不便さ考えると、南富良野の町民の皆様が一番影響を受けているわけでありまして、皆様の生活とこれからのまちづくりを見据えて、町民皆様の総意により、進むべき道を選択してまいりたいと思っておりますので、町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

■モンベルと地域活性化起業人に関する協定に基づく派遣職員の着任について

道の駅を核としたまちの賑わい創出事業を進めるにあたり、総務省の地域活性化起業人制度を活用して、三大都市圏に勤務する企業の社員が、南富良野町独自の魅力や価値の向上につながる業務に従事することで、道の駅を核としたまちの賑わいを創造するとともに、観光振興をきっかけとしたひとの流れを創出することを目的として、包括連携協定を締結しております株式会社モンベルより、去る11月29日に職員を派遣いただき着任いたしました。

これを契機として、相互の連携をさらに強化し、本町の豊かな自然環境を活かしたアウトドア活動の促進を通じ、道の駅を核としたまちの賑わい創出事業への協力など地域の活性化に向けた活力あるまちづくりに大きく貢献していただけるものと期待するところであります。

■国道38号線三の山峠、狩勝峠及び国道237号線金山峠の予防的通行規制の実施について

国道を管理する北海道開発局旭川建設部から、「数年に一度の猛吹雪」といわれる異常気象時において、通行車両の立ち往生により、緊急車両の通行が確保されず、災害応急対策の実施に著しい支障が生じるおそれがある場合には、これを未然に防ぐため、早めに通行止め等の規制を行う「予防的通行規制」が今年の冬より実施される旨説明がありました。

この早めの通行止めの周知方法については、開発局のホームページや道路情報センターをはじめ、各種メディアを通じて市町村住民に周知の徹底を行う予定であるとの事であります。また、通行止めの規制中は、緊急車両の通行に備えて一車線は確保する除雪体制となっているとのことであり、緊急時には通行可能である旨確認をしております。

本町としましては、平成25年10月の季節外れの大雪による交通災害を踏まえ、また、近年の異常気象による度重なる交通災害に対する備えとして、人命を最優先に考えた対策として受け止めており、町民皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■防災訓練及び防災会議について

本年度の各地区防災訓練でありますが、幾寅東町地区及び下金山地区での実施を計画しておりました。

幾寅東町地区については、町内会と打合せを行いながら、９月23日に実施すべく、チラシの配布とともに参加集約を行いましたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言も継続しておりましたので、参加者側の不安が大きく町内会と協議した結果、中止とさせていただきました。

下金山地区につきましては、去る11月27日に地域住民64名の参加をいただき実施いたしました。内容につきましては、８時30分から広報により避難を開始いただき、受付後にコロナ禍における避難所のあり方、避難時の緊急持ち出し品の確認、避難所の自主運営体験、非常食の試食、段ボールベットの組立てなどを行いました。

地域における防災意識の高揚及び防災力の向上が図られたものと思うところであります。

今後におきましても、随時各町内会等と協議を行いながら、継続的な取り組みを行ってまいります。

さらに、11月30日には北海道森林管理局、北海道開発局、旭川地方気象台、陸上自衛隊、上川総合振興局、富良野警察署等の各関係機関委員の皆様にお集まりいただき、南富良野町防災会議を実施いたしました。

会議では、国の警戒レベルの改訂等に伴う地域防災計画書内容の一部変更の承認いただいた後、各関係機関からの情報提供をいただき終了いたしました。今後とも各種情報を収集し、必要に応じて開催するよう取り進めてまいります。

下金山地区防災訓練

教育長の教育行政報告

■コロナ禍における小中学校の活動状況等について

北海道を対象とした国の緊急事態宣言が９月30日に解除され、北海道の警戒ステージも３から２へと移行し、11月１日からは警戒ステージが１に移行され、これまで同居する家族に風邪症状等がある場合は感染症による出席停止となっておりましたが、国の衛生管理マニュアルに基づき、同居する家族は対象外となり、児童生徒に風邪症状等がある場合のみ、出席停止の扱いに変更となりました。引き続き、基本的な感染症対策の徹底と、登校後に発熱などの症状が見られた場合、早期の対応が重要でありますので、国から無償配布されました抗原検査簡易キットを利用するなど、子どもたちに安全・安心な環境を提

供するよう努めてまいります。

2学期中の各種行事につきましては、小学校の修学旅行は、当初9月に実施する予定でありましたが、緊急事態宣言中でありましたので実施時期を延期し、警戒ステージの緩和や感染者数の落ち着きがみられたことから、11月15日から1泊2日の日程で、ウポポイなどを見学し実施いたしました。学芸会につきましては、南富良野小学校では10月16日に、南富良野西小学校では11月6日にそれぞれ予定どおり開催し、観覧者は、密を避けるため、父母や町内の家族に限定し、南富良野小学校では、学年毎に観覧者を入れ替えるなどの感染症対策を徹底し行いました。

次に、去る10月7日に、令和4年度小学校入学予定者を対象とした、就学時健康診断を実施いたしました。令和4年度は、南富良野小学校では16名の入学者を予定しており、全児童数は本年度88名が89名に、南富良野西小学校では2名の入学者を予定しており、全児童数は本年度と同じく20名となる予定であります。

沖縄県本部町親善交流事業につきましては、本部町より来年2月に訪問予定でありました冬の交流事業については、子どもたちの安全を最優先に考え中止とし、令和4年度にこれまで派遣予定をしていた児童生徒を派遣し交流を図りたいとの連絡がありましたので、本年度の両町の交流事業は中止とし、次年度、感染の収束が見られた段階で実施するよう取り進めることといたしました。

南富良野小学校での表彰伝達式より

■防災教育における表彰について

南富良野小学校が防災教育における実践活動が評価され、令和3年度文部科学大臣表彰を受賞いたしました。振り返りますと、平成28年8月にかって経験したことのない豪雨災害が発生し、南富良野小学校が避難所となったことを受け教育委員会としては、児童生徒一人ひとりが自然災害に対する危険予測や、安全に行動するための回避能力を身に付けさせる防災教育の重要性を認識し、平成30年度には文部科学省の「実践的安全教育モデル構築事業」に本町が選ばれ、南富良野小学校を拠点校として小中高等学校で防災教育に取組むこととし、8月31日の町防災の日に「1日防災学校」を令和元年度から毎年実施してまいりました。これらの取組が評価され、令和元年度には「上川管内教育実践表彰」を、令和2年度には「北海道教育実践表彰」を受賞し、今年度は、最高位の「文部科学大臣表彰」を受賞することができました。児童生徒の頑張り並びに教職員の指導力に感謝し、また、これまでご協力いただきました保護者の皆様、地域の方々、町赤十字奉仕団及び上富良野駐屯地第4特科群第131特科大隊並びに第14施設群にお礼を申し上げます。

■南富良野高等学校の事務事業等の取組について

南富良野高等学校として、町の魅力地域を盛り上げ、町の魅力を発信する取組として、これまで、かなやま湖をテーマに歴史や生態系・アクティビティーを調べた魅力発信や町内飲食店のメニュー表づくりなど地域との連携を深める教科学習を行い、このたび、2年生が鹿肉などを材料とした創作調理実習を行いました。9回の授業では、はじめにジビエに関する食品衛生や鹿肉の栄養素などを学び、町内の鹿肉加工業者から提供していただいた鹿肉の調理方法を話し合い、レシピづくりのテーマを「観光客に喜んでもらえる手軽で魅力的な料理」とし、盛り付け方法やパッケージにも工夫を凝らし、鹿肉を利用した生春巻きやカレーコロッケ、鹿肉・豚肉と豆腐を合い挽きにした唐揚げなどのジビエ料理を考案しました。今後、地元飲食店と連携を図りながら実現化に向け取り組んでまいります。

また、学校の魅力化づくりとして、コミュニケーション能力や協調性を身につけ、生きる力を養うことができるよう、本年度より「アウトドア授業」を学校設定科目として導入し、地域の自然などを活用した学びを展開しております。地域課題に主体的に取組む系統的な学習の充実を図るために、高大連携として北海道大学及び北海道教育大学岩見沢校から講師等の派遣を受けることで先般、協議が調いましたことから、今年度から大学教授や大学生を招き、講義や実技指導を受け、アウトドア授業の深化を図ってまいります。札幌国際大学との高大連携では、11月3日にカーリング部が大学のカーリング部を訪問し、コーチからの指導のもと、合同で強化練習を実施いたしました。

11月末現在の進路状況につきましては、卒業予定者13名中、進学は8名で、専門学校には5名が合格し、国立大学及び私立大学への進学希望者3名は、これからの受験となります。就職は5名で全員が内定しており、うち2名が町外の介護サービス施設に、また、自衛隊への就職が1名、道内民間企業へ2名が内定となっております。

次に、いじめやネットトラブルの根絶を目指すために、思いやりをもって人と接する社会の実現に向けた意識の向上を図るため、北海道いじめ問題対策連絡協議会が主催する「絆づくりメッセージコンクール」において、南富良野高等学校生徒会が応募したメッセージ「輪になろう！それぞれ個性の認め合い」が、高等学校の部における応募総数2，491作品の中から全道優秀賞に選ばれました。

次に、現在令和4年度の入学者確保に努めており、遠方からの通学者や、町内に下宿を希望する入学者などに備え、希望する生徒への学校給食の提供について準備を進めているところであり、11月19日に全生徒を対象に試食会を実施いたしました。試食会後の生徒へのアンケートでは、「お母さんを朝楽にしてあげたい」「親の負担が減る」など、85％の生徒より来年度からの給食を希望する声がありました。生徒の食育や利便性など、学校生活の充実と魅力化を図る取組みとして、来年度からの学校給食導入に向け準備を進めてまいります。

■社会教育事業について

去る10月27日に町PTA連合会の研修会が、昨年度各学校に整備したネットワーク環境やタブレット端末機器を利用し、コロナ禍においても開催できる事業の取組みとして、オンラインによる研修を行い70名の方々が参加されました。研修会テーマを「ネット社会における子どもたちの健全な成長を目指して」と題し、保護者をはじめとする参加者は各学校に集まり、南富良野中学校をメイン会場とし、中学校で行われている研修会を各小学校・高等学校並びに上川教育局・町教育委員会にオンラインで配信を行い、実践事例について双方向による意見交換を行いました。

次に、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっておりました千里大学宿泊研修を10月28日・29日に釧路方面を研修先とし実施いたしました。北海道教育大学釧路校を訪問し、「地域の地質、災害リスクについて学ぶ」と題し講義を受け、津波実験装置による津波のメカニズムについて学び、千里大学での防災教育を深める機会となりました。

次に、去る10月30日にスポーツ講演会とバレーボール教室を南富良野高等学校体育館で開催し、小学生から大人まで50名の参加をいただきました。講演会では、バレーボール女子Vリーグ参入を目指して昨年12月に設立されました「アルテミス北海道」の監督で、アトランタオリンピック並びにアテネオリンピックに日本代表選手として出場し、1999年には世界ベスト6に選ばれるなど国際大会において全日本チームのエースとして活躍された、元日本代表の成田郁久美氏と所属する3選手を講師とし、バレーボール人生を振り返った講演と、来場者からの質問に答えるトークセッションを行いました。また、バレーボール教室での実技指導やミニゲームでは、珍プレーや好プレーに歓声が沸き、少年団員をはじめ、経験者・未経験者を問わず楽しい交流を図ることができました。

次に、去る11月27日から2日間の日程で南富良野ジュニアカーリング選手権大会が空知川スポーツリンクスを会場に開催されました。感染予防対策として、参加チーム数を限定しての開催となり、男女各4チームの併せて8チーム49名の選手や役員が参加して行われ、熱戦が繰り広げられました。地元からは、南富良野カーリング協会所属の男女各1チームと南富良野高等学校カーリング部が出場し、男子の部では、小中学生で構成する地元カーリング協会所属チームが、優勝いたしました。女子の部においても地元協会所属チームが善戦しましたが、惜しくも準優勝となりました。南富良野高等学校カーリング部につきましては、男女ともに第3位に入賞となりました。

■イトウの調査報告について

次に、本年度実施したイトウに関わる調査について報告いたします。

調査は、かなやま湖上流の空知川水系の本流を含めた繁殖9河川で行い、本年度は、昨年度より4箇所多い340箇所の産卵床を確認いたしました。平成28年8月の豪雨災害により生息環境が悪化し、災害前と比べて平成30年には34％に激減しましたが、その後イトウの餌となるワカサギやウグイが徐々に増え続けたことからイトウの親魚が成長できる環境となり、本年度は89％になり回復に向かっております。また、繁殖9河川のうち1河川において遡上親魚の全個体調査を行いました。この調査は平成17年から継続的に実施しており、本年は調査開始以降最多となる106匹の親魚が確認されました。このうち雌が58匹で体長から推計すると6歳魚が突出して多く、雌が産卵を初める年齢は7歳魚が最も多いことから、来年度以降のイトウ生息数の増加に大きく寄与することが期待される状況であります。

また、イトウ保護の普及啓発活動の一環として、写真展を11月16日から11月22日までの間、情報プラザにおいて開催し、町内外から130名の方々に来場いただきました。イトウの産卵シーンなどの写真40点のほか、ソラプチイトウの会の協力を得て作製した、過去にかなやま湖で釣れた全長127cmの等身大のイトウが産卵している様子を再現した模型や、町内小学生が環境学習で学んだことをまとめたポスター並びに南富良野高等学校1年生がアウトドア授業で作製したルアーなどを展示いたしました。期間中、イトウの保護活動と併せて行ってきている調査研究の成果や、5年前の災害で被害を受けた生態系の回復状況などを紹介する講座を3回開催し、絶滅危惧種に指定されている淡水魚最大のイトウが生息している、自然豊かな南富良野町の魅力を伝える取組を行いました。

イトウ写真展

カメラレポート
CAMERA REPORT

このコーナーでは、地域や学校で行われるイベント行事などを紹介します。皆さんの身近で行われている楽しい催しなどありましたら、企画課広報統計係（☎52 - 2115）までお知らせください。

北海道日本ハムファイターズ出前教室（12月15日）

北海道日本ハムファイターズの出前教室が、南富良野小学校と南富良野西小学校の児童が参加し、南富良野小学校体育館で行われました。

教室では、両校の低・中・高学年の体育の時間に、ファイターズの立石 尚行ディレクターと吉田 侑樹コーチが講師として、ボールの投げ方や受け方などの実習のほか、最後まであきらめない気持ちや、勝っても負けても互いに全力を出して戦った相手に、感謝と敬意を持つ気持ちが大切であると学んでいました。

南富良野高校生が議会傍聴（12月15日）

南富良野高校3年生が、総合的な探求の授業の一環として、12月に行われた町議会定例会を傍聴しました。

傍聴した日の議会は、町や町教育委員会が取り組んでいる事業を議会に報告する行政・教育行政報告、議員の皆さんが町の施策の状況や方針などを求める一般質問が行われ、生徒は、議場内の緊張感を体験し、町の取組や町のため真剣に議論を行っている方々の存在を知るなど、地方自治について学んでいました。

道立北の森づくり専門学院の林業実習（12月22日）

将来的に林業企業で活躍する人材を育成するため、道内で唯一、林業・木材産業の専門課程を有し令和２年に開校した「道立北の森づくり専門学院」の林業実習が本町で行われ、町森林組合のチップ工場と現地破砕試行現場を見学しました。

この実習では、本町が木質バイオマスエネルギーに着目し、公共施設の木質バイオマスボイラーの導入や、林地未利用材の現地破砕など積極的に取り組んできた過程及び実態を学ぶことを目的に行われ、参加した生徒は、破砕したチップを実際に手に取って見たり、積極的に質問をするなど、真剣そのものの表情で学んでいました。

鏡餅で新年を祝う（12月25日）

南富良野町もち米部会（武田伸一 会長）より、新年を祝う鏡餅の寄贈がありました。

南富良野産はくちょうもちを使った大きな鏡餅は、１月６日、仕事始めから役場玄関前に飾られ、訪れる町民の皆さんを出迎えていました。

新年の平穏と無病息災等に祈り（１月８日）

幾寅野球スポーツ少年団と南富良野スキースポーツ少年団、南富良野バレーボール少年団による「どんど焼き」が行われました。

この日集まった団員と指導員、育成会員は、幾寅地区の各家庭を訪問してお正月のしめ飾りやお札などを集め、南富良野神社境内において焼納し、１年の無病息災・心願成就などを祈願していました。

子ども朝活事業「南プ塾」（１月14･17日）

冬休み期間中の生活習慣の定着を図ることを目的として「南プ塾」が行われました。

今年は大雪の影響により３日間の開催予定が２日間になりましたが、南富良野小学校と南富良野西小学校で述べ28名の児童が参加し、高校生ボランティアや各学校の教諭が児童たちをサポートしました。

参加した児童は、１人１台の端末を使用した学習のほか、南富良野小学校では、トイレットペーパーを使った万華鏡づくりと段ボールの空気砲づくりを体験し、南富良野西小学校では、雪中サッカーを行いました。みんな寒さや雪に負けず、元気良く各プログラムに取り組んでいました。

スキーの楽しさを学ぶ（１月8･15･22日）

町スキー連盟（西山雅明 会長）と南富良野スキー指導員会（森 彰廣会長）による町民スキー教室が、南ふらのスキー場を会場として、１月８日から３週続けて行われ、町内の多くの児童が参加しました。

参加者はそれぞれの技術に応じてグループに分かれ、スキー指導員から、スキーの楽しさと安全に滑走する技術を真剣に学んでいました。

教育委員会通信

学校教育係・生涯学習係
☎52-2145

令和3年度青年交流事業「What’s up? Minamifurano」

What’s up？Minamifuranoとは？

南富良野町で働く18歳～39歳の青年層が協力して活動を企画し、また、参加することで互いの交流及びネットワーク化を図ることを目的とした活動です。楽しみながら交流を深めています。

事業の企画・実施をする際には、町内の事業所に趣旨をご理解いただき、企画実行委員を組織し、アイデアを出し合いながら様々な事業を企画・実施しています。

企画実行委員メンバー		
ふらの農協 南富良野事務所	南富自動車 サービスエリア	富良野消防 南富良野支署
からまつ園	こざくら園	なんぷ～香房
森林管理署	商工会	南富良野小学校
南富良野中学校	南富良野高等学校	教育委員会

青年交流事業第1回企画事業「職場対抗ミニバレー大会」

本年度第1回企画として、令和3年12月20日（月）に南富良野中学校を会場として、新型コロナ対策を行いながら「職場対抗ミニバレー大会」を実施し、青年の交流を行いました。

参　加　者

森林管理署	4名	からまつ園	4名
こざくら園	2名	なんぷ～香房	2名
南富良野小学校	1名	南富良野中学校	2名
南富良野高等学校	4名	町役場	6名
計　6チーム　25名			

令和4年2月1日発行　南富高新聞　第57号

南富高新聞

第57号
発行
南富良野高等学校

自分を磨く努力を讃え
～表彰者多数の終業式～

昨年末に行われた表彰式では、夏休み明けから年末までに行われた検定・資格の結果から生徒の頑張りを讃える時間を持つことができました。実用英語技能検定2級をはじめ、多くの生徒がそれぞれの分野で頑張った証を手にすることができました。特に、実務系の検定においては、情報処理技能検定の1級に2名、準1級に4名が合格、文章デザイン検定では1級に1名が合格することができました。（他の級を含めると全部で13名が合格）　さらに今年は道内の高校の家庭科クラブ連盟が主催する研究大会のホームプロジェクト部門に出場した生徒1名の発表が技能賞を受賞することもできました。検定への挑戦と合格は、大学進学や就職への一つのメリットと考え、今後も多くの生徒が挑戦してくれるよう願っています。

吹奏楽部

部活動では、吹奏楽部が定期演奏会を実施、保護者の方の観覧の中、アニメ「ワンピース」や「ルパン三世」の主題歌などを演奏しました。部員数が少ないことを忘れさせるような力のこもった演奏を披露してくれました。カーリング部は、第17回全農全国高等学校カーリング選手権大会に出場する権利を獲得しました。男子チームの4名が1月27日（木）から青森県で4日間に渡って行なわれる大会に行ってきます。今年から始めた1年生3名を経験豊富な2年生が引っ張って頑張ってきました。本校生はもちろん、町民の方々の応援を期待しています。

カーリング部

シリーズ 学校だより 227
各学校の取り組みを紹介します。

▶▶南富良野高等学校 ▶▶▶

「深い学び」の充実のために
～高大連携授業を通して～

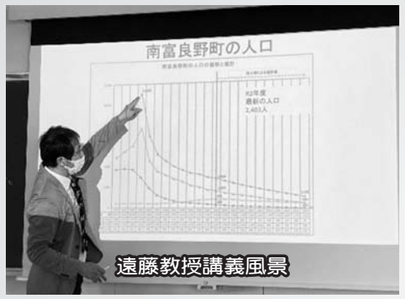
本校は平成23年に北海道教育大学岩見沢校と、平成24年には札幌国際大学と高大連携の協定を結んでいます。南富良野町は、小学校から高校まで12年間の学習活動に連続性を持たせ、深化・発展させる目的で小中高連携にも力を入れていますが、高校ではさらに発展的な学習活動を展開するために大学との連携で、生徒の資質・能力を伸ばすプログラムを実践しています。

その中でも、札幌国際大学には本校の卒業生も進学し、高校時代に町で磨いたカーリングの技術を大学の部活動で発揮したり、保育や観光と言った将来の職業選択の幅を広げることのできる大学として協力していただいています。

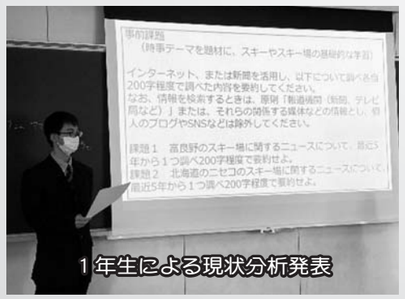
特に、昨年度から前札幌国際大学教授（現在は北海道大学観光学高等研究センター客員教授）である遠藤正教授には、「南富良野町にある国設スキー場への観光客誘致の方法」をテーマに、現状の分析や統計の活用、仮説から課題設定をし、考察することで「高校生に何ができるか」を考える思考型の授業の指導をしていただいています。

昨年末に実施した授業を受け、今後、スキー場来場者へのアンケート調査の実施や今後のスキー場のあり方を考える活動を展開する予定となっています。

「町の施設等を有効に活用することで、町に学び、そこから町に未来をもたらすことができる一つのきっかけとなること」がこの連携の目標の一つなのです。町民の皆さんのご協力もお願いいたします。



遠藤教授講義風景



1年生による現状分析発表

しょうぼう広報　ほのお

富良野消防署南富良野支署
☎52-2119　FAX52-2979
✉fs-nanpu@vesta.ocn.ne.jp
災害案内　☎52-3119

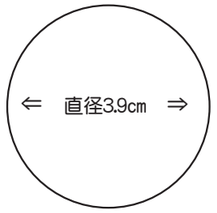
子供の誤飲・窒息に要注意！！

子供が異物を喉に詰まらせることや、飲み込むことにより起きる事故は、全国規模で見ると多く発生しています。子供の成長段階によって、誤飲や窒息の原因が異なり、子供の成長を知ることや、誤飲や窒息の危険性を再確認しましょう。また、その対処法について紹介します。

	1位	2位	3位
0歳	包み・袋	たばこ	玩具等
1歳	たばこ	薬剤等	野菜・果物
2歳	玩具等	魚等の骨	あめ玉類
3～5歳	玩具等	魚等の骨	ビー玉類

令和元年度　東京消防庁救急搬送統計　抜粋

！飲み込むと危険性が高いもの！
ボタン型電池・コイン型電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管内に損傷を起こす恐れがあります。
また、直径が大きく食道にとどまる可能性が高いため、誤飲すると死に至る恐れがあります。



子供の口の大きさは3歳で直径3.9㎝（トイレットペーパーの芯の直径とほぼ同じ）。
これより小さいものは子供の口にすっぽり入り窒息の危険があるため、子供の手の届かない場所に片付けましょう。

もしもの時の応急手当！

①反応ある子供に対して、背中を強くたたく方法（背部叩打法）

（乳児）

（小児）

・指で下あごを支えて軽く突き出し、上半身がやや低くなるような姿勢にする。
・手の付け根で両側の肩甲骨の間を4～5回迅速にたたく。

②反応ある子供に対して、胸骨を圧迫する方法（胸部突き上げ法）

・背部叩打法で除去できなければ、仰向けにし、胸骨圧迫の要領で4～5回圧迫する。
（乳児）①と②を異物が取れるか反応がなくなるまで繰り返す。
（小児）①と腹部突き上げ法（右図）を、異物が取れるか反応がなくなるまで繰り返す。

反応がなくなったら直ちに心肺蘇生を！！
救命講習の受講者を随時募集しています！

※腹部突き上げ法

男性・女性消防団員募集

消防団に関することは消防係まで

南富良野支署出動件数（令和3年1月1日～12月31日）
○救急出動　91件（うちドクターヘリ要請件数 14件）　○火災出動　3件（うち他市町村応援出動　2件）
○救助出動　5件

子育て支援センター「ぷっこ」だより

～☆★明るく元気な子にそだちますように☆★～

子育て支援センター　☎52-2315　☎090-5985-4339

冬本番！すごく寒かったりたくさん雪が降ったりなかなか外に出られない日もありますよね。だけど冬の寒さを吹き飛ばすくらい元気な子ども達、たくさん遊んで冬将軍をやっつけよう！

0歳・1歳ぷっこ

かわいい手形を押して、クリスマスツリーのできあがりです。

ぷっこクラブ（くるみ園訪問）

おじいちゃん、おばあちゃんとゲームをして楽しかったよ♡

ぷっこクラブ（クリスマス会①）

みんなが待っていたサンタさんに会えて良かったね！

ぷっこクラブ（クリスマス会②）

クリスマスリースを作りました。
のりを使い上手に色紙を貼りました。

保育所の元気な子どもたち

幾寅保育所

幾寅保育所では、みんなが待ちに待ったクリスマス会を行いました。クリスマス会では、紙芝居やシルエットクイズ、いつもより豪華な給食やおやつを楽しみ、サンタさんも登場し、プレゼントをもらったお友達は、笑顔でありがとうと言っていました。

金山保育所

12月にみんなでクリスマス会を行いました。サンタさんの登場でびっくりして泣いてしまう子もいましたが、子どもたちは、やさしいサンタさんからそれぞれ違ったプレゼントを貰って、とても喜んでいました☆

寄　附

12月27日、株式会社 吉岡建設（鷹嘴充子代表取締役）から、町の振興に対し二百万円の寄附がありました。

ワカサギ釣り本番
事故やルールに気を付け楽しい釣りを！

近年、釣りブームなどで利用者が増えていますが、一酸化炭素中毒事故やゴミの不法投棄などの事例も増えてきています。皆さんも今一度、注意をしていただきワカサギ釣りを楽しみましょう。

◎一酸化炭素中毒事故を防ぐ注意点

①スキーウェアや帽子の着用など防寒対策の徹底。
②テント内で火気を使う際には、こまめな換気を行う。
③一酸化炭素濃度を測定できる機器を活用する。

◎守っていただきたいマナー

①ゴミやふん尿は持ち帰りましょう。
②迷惑になる車の駐車はやめましょう。
③イトウが釣れたら必ずリリースしましょう。

寄附・寄贈

次の方々から寄附・寄贈がありました。皆さんのご厚志に対し紙上をもって厚くお礼申し上げます。

南富良野町へ

○金　山　細井智弘様より町の発展に対する寄附金として　十万円

社会福祉協議会へ

○幾　寅　山内茂樹様より社会福祉協議会の運営に活用する寄附として　一万円

○匿名希望　社会福祉協議会の運営に活用する寄附として　十万円

一味園・からまつ園・こざくら園・ふくしあへ

○幾　寅　幾寅婦人会　様
○幾　寅　エーコープ南ふらの店　様
○幾　寅　小松建設工業㈱　様
○幾　寅　㈱ソケイズ　様
○幾　寅　㈱富良野自動車サービスエリア　様
○幾　寅　㈱吉岡建設　様
○幾　寅　及川由美子　様
○幾　寅　竹澤喜一郎　様
○幾　寅　中村則之　様
○幾　寅　曲木和子　様
○幾　寅　吉田千春　様
○金　山　髙松光子　様
○下金山　及川智　様
○下金山　永井博　様
○下金山　中田外喜子　様
○占冠村　瀬屑文郷　様
○占冠村　坂東寿美子　様
○富良野市　㈱コダマ　様
○富良野市　ヘアーサロンナカオ　様
○富良野市　北海道コカ・コーラボトリング㈱富良野営業所　様
○富良野市　メガネのデ・アイ　様
○富良野市　香川英憲　様
○富良野市　後藤宗男　様
○富良野市　白澤英二　様
○富良野市　清野静子　様
○富良野市　幕田和子　様
○富良野市　森川幸作　様
○中富良野町　岩崎恵美子　様
○美瑛町　窪田佳代　様
○東川町　旭川福祉専門学校　様
○東川町　HJK㈱　様
○旭川市　大丸ケアサービス㈱　様
○旭川市　田中敏夫　様
○名寄市　原子ミヨ　様
○芽室町　辻経之　様
○帯広市　西村美和　様
○豊頃町　末永美子　様
○岩見沢市　須田勝雄　様
○江別市　㈱エル・ティー・エス　様
○札幌市　アスカマネジメントアシスト　様
○札幌市　㈱特殊衣料　様
○札幌市　東知恵子　様
○札幌市　伊藤輝美　様
○埼玉県　橋本直子　様
○東京都　加藤哲典　様
○神奈川県　上元順　様
○兵庫県　萩幸子　様

★お悔やみ申し上げます

幾寅曲木晃一（90）
令和3年12月7日逝去

下金山熊坂肇（88）
令和3年12月21日逝去

わたしたちのまち
（令和3年12月末日現在）

人口　2,363人（△11）
男　1,202人（△8）
女　1,161人（△3）
世帯数　1,331戸（△6）
（　）内は前月比

□発行／南富良野町役場　編集／企画課 広報統計係　Tel.52-2115
□ホームページアドレス http://www.town.minamifurano.hokkaido.jp

古紙配合率60パーセントの再生紙を使用しています。